

**製品名: CHK2 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM80658**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2b
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	61kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CHK2
別名	CDS1; LFS2; CHEK2
遺伝子 ID	11200.0
SwissProt ID	O96017
免疫原	大腸菌で発現したヒト CHK2 (aa481-531) の精製された組み換え断片。

**背景**

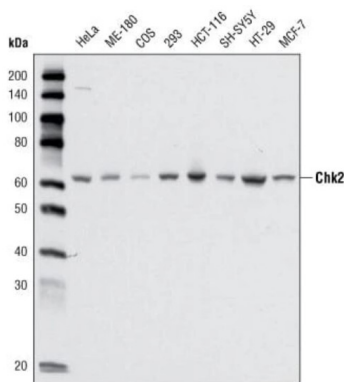
CHK2: CHK2 チェックポイントホモログ (*S. pombe*)。DNA 損傷および複製阻害に反応して、重要な細胞周期制御因子の制御により細胞周期の進行が停止します。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞周期チェックポイント制御因子であり、腫瘍

抑制因子と考えられています。この遺伝子は、DNA 損傷に対する活性化に不可欠なフォークヘッド関連タンパク質相互作用ドメインを有し、複製阻害および DNA 損傷に反応して速やかにリン酸化されます。活性化されると、コードされているタンパク質は CDC25C ホスファターゼを阻害し、有糸分裂への移行を阻害することが知られています。また、腫瘍抑制タンパク質 p53 を安定化させ、G1 期での細胞周期停止をもたらすことが示されています。さらに、このタンパク質は BRCA1 と相互作用してリン酸化することで、DNA 損傷後の BRCA1 の生存回復を可能にします。この遺伝子の変異は、通常 TP53 の遺伝的変異に関連する、浸透率の高い家族性癌表現型であるリ・フラウメニ症候群と関連付けられています。また、この遺伝子の変異は、肉腫、乳がん、脳腫瘍の発症素因となると考えられています。この核タンパク質は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼの CDS1 サブファミリーに属します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 3 つの転写バリエーションが見つっています。

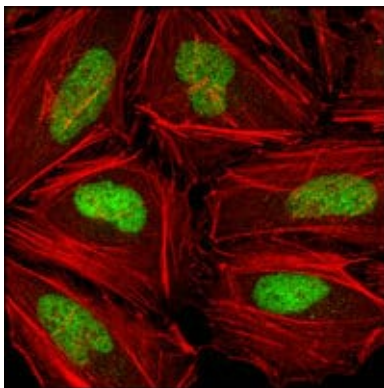
## 研究分野

アポトーシス

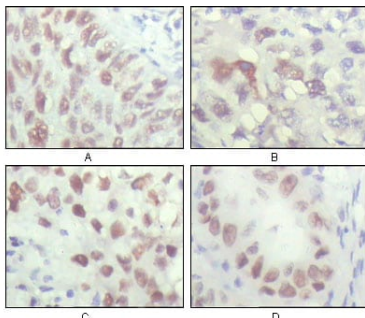
## 画像データ



さまざまな細胞タイプの細胞溶解物に対する CHK2 マウス mAb を使用したウェスタンブロット分析。



CHK2 マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の共焦点免疫蛍光染色。核局在を示す。赤: アクチンフィラメントは DY-554 ファロイジンで標識されている。



パラフィン包埋ヒト肺癌 (A)、肝癌 (B)、乳癌 (C)、および腎臓癌 (D) の免疫組織化学分析。CHK2 マウス mAb を使用した DAB 染色による核局在を示しています。

